会長の時間　　令和５年１月３０日第２０７４回例会

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　会長　田中和俊

　イマジンロータリー！本日は職業奉仕賞授賞式ということで、藤絹織物株式会社の上村和己様に来ていただきました。ご紹介のほうは推薦者の松元さんや代表取締役の藤様、ご本人のご挨拶の中でしていただくとして、大島紬ひとすじ４４年、今でも第一線でご活躍なさっているということに、ただただ感服いたします。超高齢社会と言われる現代において、まさに上村様は模範となる方だと思います。ご勤務されている会社の社長様からの推薦ということで選定させていただきましたが、まさに当クラブの職業奉仕賞にぴったりの方でした。後ほど授賞式のほう、よろしくお願い致します。

　さて今月は職業奉仕月間です。私は職業奉仕って言葉が大好きなんですよね。そこにロータリーのすべてが詰まっているのではないかと思います。ポールハリスがロータリーを創ろうとしていた２０世紀初頭のアメリカのシカゴは、禁酒法のもと、ゴッドファーザーの映画のアルカポネのようなギャングが出てきました。世間一般に商業道徳の欠如は著しく、かつ不正行為が蔓延していて、拝金主義が支配する社会情勢だったそうです。そこでポールハリスは、お金よりも、まじめに働くことが大切であると思っていたのではないかと思います。彼の考える職業奉仕とは、倫理観を基礎にした「勤労による社会貢献」というものではないかと思います。しかもそれはやみくもに利益追求そのものをいけないこととするのではなかったはずです。渋沢栄一さんも同様の考えだったようです。道徳に基づいた商業を目指し、利益追求も同時に兼ね備えた活動を職業とするという思想です。

　ロータリーでいうところの職業奉仕の英語表記は「vocational（ボケイショナル） service」です。他に職業としての英語は「occupation（オキュペイション）」があり、こちらは時間や空間を占めるという意味があって、どちらかというと会社員のように自分の時間を会社に提供して対価を得るような意味のようです。それに対して「vocational」は、使命や天職という意味があるようです。なので、ロータリーの職業奉仕は、「天から授かった職業を、高い倫理基準を保ちながら、社会に貢献する場として奉仕の理念を実践していく機会」と解釈できます。私も司法書士という仕事は天職だと思っています。ありがたいことに何人かの方にもそう言っていただいたことがあります。人生にとって一番の幸福は、自分の天職を知ってこれを実行に移すことだとも書いてありました。アーサーフレデリックシェルドンの有名な講和に「靴屋」の話があるそうです。「世界中の靴屋が一か所に集まった時に、そこで天災があったら、世界中の人々は裸足で歩くことになる。そのとき社会は、靴屋さんがいかに社会に役に立っているか、職業を通じたサービスをしているかがわかるだろう。」というものです。職業は対価を得るだけではなく、人類が社会生活を営むために必要な業務を分担することであると。職業奉仕というと何か難しいことのようでもありますが、とにかく仕事をまじめにすることです。「真実かどうか、みんなに公平か、好意と友情を深めるか　みんなのためになるかどうか」という４つのテストにつまっているのではないかと思います。このとおりではビジネスはできないと言われる方もいらっしゃいますが、これを基本に考えていけばいいのではないかと思います。これからも職業奉仕の精神でなるべく長く仕事ができたらと思っております。